

事業名

Bーぐるでつながる新しいコミュニティ創出事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上～300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	Bーぐるが沿線地域の多様な主体の「縁結び役」となることで、沿線地域に新しいコミュニティが生まれ、沿線地域の活性化につなげていくことを目標としたが、今回のモデル事業では具体的な成果を出すまでには至らなかった。ただし個別の事業に関しては、映像コンテンツに対するアンケートや「+ワン！」サービス協力店へのヒアリング等から、事業の方向性の正しさを確認することができたことは一つの成果であり、今後の事業継続により具体的な成果につなげていきたい。	2
2	市民性	今回のモデル事業を通じて私たちは、一つの活動が周囲の「共感」を得て、多くの人を巻き込みながら地域のムーブメントとなっていくプロセスには、自分たちの「思い」をいかに伝えていくかが重要ということを改めて認識した。私たちにとってそれは『Bーぐるでまちとひとをつなぐ』というメッセージであり、このことは関連調査の結果をみても本協議会の活動が一定の「共感」を得ていることが確認できた。今回の事業を足がかりとして事業の選択肢を増やしつつ、自分たちの活動を応援してくれるファンを増やしていきたい。	4
3	波及効果	本事業は、年間 50 万人が乗車するBーぐるが生み出す人の流れをいかに沿線地域に波及させ、沿線地域の活性化につなげるかを目標としており、今回のモデル事業では車内での沿線地域の情報発信や沿線の多様な主体とのタイアップイベント等の事業を実施した。コミュニティバスは「地域密着型」の公共交通機関であり、人を「はこぶ」という機能のみならず、沿線の人や地域を「つなぐ」コミュニケーションツールとしての役割を果たす可能性を有している。	4
4	継続性	本事業を実施した 2 年間の中で得られた有形無形の資産を活用して、組織運営・活動資金を調達する方策を検討中である。今回のモデル事業で設置した車内液晶モニターを活用した沿線企業や商店街等からの広告収入や番組への提供、イメージキャラクター「びい」関連グッズの商品化、また「Bーぐる友の会」を組織化し、の会費収入等を協議会の運営資金とすることも検討していく。こうした沿線地域の多様な主体の「共感」を得ることで、活動の継続性を担保していきたいと考えている。	3

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>本沿線協議会はBーぐるの利便性の向上と安定的な運営に関する協議の場としての性格が強く、立場の違いもありBーぐるに対する意識の差があった。実質的な事業活動は協議会委員有志と新たにボランティアを募る実施計画としたことから、活動基盤を強化しながらのスタートになった。本モデル事業に対しても、事務局はこうしたマルチステークホルダー間の温度差を乗り越えて事業を実施していくことに苦勞した面がある。</p>	2
---	------------------	--	---

合計点

15

ランク

B